



嬉泉の新聞 第84号 2021年（令和3年）10月発行

発行＝社会福祉法人嬉泉

東京都世田谷区船橋1-30-9 (〒156-0055) TEL 03-3426-2323

http://www.kisenfukushi.com E-mail : kisen@kisenfukushi.com

## 「支援者支援の重要性」

社会福祉法人嬉泉 評議員

日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科 研究科長

藤岡 孝志

コロナ禍の状況下、支援現場は大きな危機にさらされ続けています。安定した日常こそが、利用児者の方々と職員の方々が時間をかけて作り上げてきたものでした。しかしそれが、人と人との関わりで一定の距離をとることを求められ、顔の一部をマスクで覆うことが推奨され、これまで大事にしてきたコミュニケーションの方法は一変しました。屋内外での活動なども制限され、一緒に何ができるかの試行錯誤の日々です。支援者である職員の方々は日々支援の気持ちを一定に保つことの大変さにさらされ続けています。このような状況下、改めて支援者支援に思いを馳せることが大事になってきています。

支援者支援では、支援者がストレスを抱えることがあっても、抱え込みすぎず少しでも解消できるように支援をするということが大事になります。しかし、実はそれだけでなく、「支援者として安定した姿で利用児者の前に立ち現れること」の持続もとても大事です。相談を必要とする人たちや活動を共にする利用児者にとって、支援者が非常に不安定だったり、不安そうな表情をしていたりすると、「困ったときに助けを求めることができる人」としてなかなか位置付けてもらえないことがあります。また、支援者が利用児者の気持ちの動きに思いを寄せて、その気持ちを表現してあげたり、つらさきつさを汲んであげたりすると、利用児者はその支援者と一緒にいろいろなことに挑戦しても大丈夫、一緒に居てうれしいと思えます。しかし、支援者に余裕がなくなると、そのような「おもんばかり気持ち」を働かせるのがきつくなってしまい

ます。「支援者支援は、利用児者支援」「利用児者支援は、支援者支援」といわれるゆえんです。

どんなに経験のある支援者も疲弊するし、不安にもなります。特にこのコロナ禍の状況で、仕事やプライベートの区別もないぐらいに、いろいろなところで、疲弊し、不安になり、あるいは新たな出来事に遭遇しなければいけない緊張感にさらされています。このような時に、支援者も「困ったときは助けを求める」という感覚が大事になります。利用児者と同じです。ちょっとしたことでも言葉にして聴いてもらえる、わからないことをわからないと言えるなど日ごろからチームの中で関係作りをしておくことが大事です。そして、支援者一人ひとりの疲れや戸惑いなどをさりげなくわかるとしている「支援者支援コーディネーター」がチームの中で一人は必要です。さりげなく、「最近調子はどうですか?」「いい感じで○○さんに声掛けができていますね」など言ってもらえると、「支えられている」「自分のことをわかつてもらえている」という感覚が沸き上がり、意識の焦点が支援者のポジティブな面を引き出し、持続させます。支援者が「安定した、凜(りん)とした姿」(存在)で利用児者の前に立ち現れるための一つの工夫とも言えます。厳しい状況だからこそ、支援者支援の重要性が再認識されることが求められていると思います。

### \*参考文献\*

藤岡孝志 2020 支援者支援養育論

／ミネルヴァ書房

## 「受容的交流とは何か」を考える

社会福祉法人嬉泉 理事長 石井 啓

「受容的交流（療法、理論）とは何か」という問い合わせは、我々嬉泉の人間にとつて深遠なる命題である。日々の援助実践において大きなバッケボーンともいべき理念でありながら、それを他者から正面切って尋ねられると一瞬たじろぐ自分がいふ。それを気取られぬうちにしつれつと「受容的交流（理論、療法）」は、自閉症児者への治療的・福祉的援助の実践を通じ、石井哲夫によつて創始された療育理論（療育援助技術）で、人間関係における『受容と交流』は人を人たらしめる発達・成長の原理です。受容的交流は、この基本となる人の相互関係、相互作用を重視する立場をとり、子どもを育てる母子の相互作用に原型を求めることができます。この『関係性』重視の理論と技術は、自閉症療育のみならず、広く福祉援助一般に適用できるものですが、これは梗概であつて内容の

説明ではない。聞かされた方も何とか」という顔をするので、「実際にからんという顔をするので、「実際に援助の現場で体験をする中で理解が深まります」と言葉を重ねることになる。それは事実であるし、むしろ援助実践をとおして感覚的に掴める支援の現場では、援助者同士の共有するものとして、受容的交流の精神は受け継がれ、今日も脈打つていると感じられる。それは嬉泉職員だけの共同幻想などではなく、実習生や研修生、第三者評価委員などの部外者の中にも、その実在を体感し得る人のいることからも明らかである。

しかし、この歯切れの悪さは何なのか。それは、石井哲夫前常務理事亡き今、何人もその概念の体系を提示し得ないということもある。しかし上手く言葉にはならないが、嬉泉の現場で援助実践を行つていれば確かにその存在を感じることが出来る。私たちが行つてゐる援助実践の根底には、確かに共通する思想があるといふ実感。それを違う言葉で表現するならば「価値」であると言えよう。

こうした価値を援助実践の中核に有していることは、援助者にとって非常に心強いことである。クライア

ントへの援助においては、その相手にたどり着くはず、というご意見もあるだろう。確かに石井哲夫は、それら著述の中で、ロジャースの来談者中心療法やモレノの心理劇、ピアジエの発達論といった先人の研究成果を踏まえた、クライアントとの関係性構築に基づく自我機能の発達理論を提示しているが、それを援助実践の場で実際になし得る技術的側面については、自身もしくは他の職員によるケースの事例が示されるのみで体系化し得ていない。つまり「ノウハウ」としての実用性が見えにくいのである。クライアントと援助者がそれぞれの人間性がそこには大きく影響するため、逆に「型」を提示し得ないということもある。しかし上手く言葉にはならないが、嬉泉の現場で援助実践を行つていれば確かにその存在を感じることが出来る。私たちは、確かに共通する思想があるといふ実感。それを違う言葉で表現するならば「価値」であると言えよう。

これからこの課題は、この受容的交流を継承していく為の体系化や技術化に向けた研究であろう。それによつて受容的交流の援助法が嬉泉以外でも実践されるようになれば、より良く生きられる人が増えて、嬉泉の目指す共生社会の実現に近づくことになると信じるからである。

2020年度社会福祉法人嬉泉事業報告

1. 法人全体

# (1) 新型コロナウイルス感染症への

刻心

新型コロナウイルス禍という非常事態下にあって、各事業とも行事を中心自粛による中止など大幅な活動内容の変更を余儀なくされた。しかし、大きな混乱もなく本務である

(2) 職員採用

職員採用においては、前年度に比して2割ほど応募者の増加が見られた。コロナ禍における一時的な増加と思われたが、この機を逃すことなく採用活動に結びつけることができた。

(5) 苦情解決実績

- 苦情申出件数 0件

(6) 第三者評価受審事業所

- 袖ヶ浦のびる学園
  - 袖ヶ浦ひかりの学園
  - 板橋区立赤塚福祉園（就労継続B）
  - 板橋区立赤塚福祉園（生活介護）

2. 各事業拠点報告

たことは特筆すべきである。この事態を通じて学び得たことの1点目は、感染防止対策を前提とした「新たな援助活動の実践」が為されてきたということである。2点目は、緊急事態宣言下の移動自粛により否応なしに求められた職員間のコミュニケーションのか。または、そこに関わる我々支援者は十分な支援を提供できていたのか。厳密な意味で確かめる術はないが、それ故一層真摯にその検証を行い、次に活かすことを本法人としてせねばならない。そのことを改めて認識させられた。

(4) 福利專生

東京都働きやすい福祉の職場宣言事業の申請を実施し、全ての事業

ら、事業運営を行つた。相談支援事

未診断が半数以上を占めた。また本年度は、困難事例に対する発達障害

において公表が実施された他、第3期くるみん認定を取得した。また、

業所は、めばえ学園、おおらか学園、赤塚福祉園の利用者の利用計画を作

2020年度をもって女性活躍推進法は第2期行動計画を満了した。今後もすべての職員が輝ける職場を目指し継続する。

成し、サービス利用を援助するとともに他事業所利用の区民のサービス利用計画作成等の援助を行つた。こぐま学園は自主運営の通所療育機関

(6) 第三者評価受審事業所	(5) 苦情解決実績
・ 苦情申出件数 0 件	として、年齢や地域、所属先にかかわらず、専門的な療育支援を発達障害児・者、及び家族への支援を実施する予定で14名の利用者との契約をしていたが、緊急事態宣言下では、

2. 各事業拠点報告

- ・ 袖ヶ浦ひかりの学園
- ・ 板橋区立赤塚福祉園（就労継続B）  
（生活介護）
- ・ 板橋区立赤塚福祉園

感染拡大防止のため療育を中止した  
ために、利用者には返金の措置をし  
て大幅な減収となつた。めばえ学園  
は、児童発達支援センターとして受け  
入れの幅を広げると同時に多様な  
ニーズに対応し、乳幼児期の療育を

(1) 「子どもの生活研究所」療育部門  
めばえ学園、おおらか学園、東京  
都発達障害者支援センター、さらに  
保育所（すこやか園・宇奈根なごや  
か園）などの事業所の実質的な運営  
を有機的に連携させた「クローバー  
システム」を基盤として、子どもの

生活研究所こぐま学園、特定相談支援事業所との関係も含めて法人内の他の事業との協力体制を図りながら、事業運営を行つた。相談支援事

センターでは、相談支援は、実件数が2,228件で、そのうち未受診・未診断が半数以上を占めた。また本年度は、困難事例に対する発達障害

者支援センターの機能強化と、成人期の発達障害者やその家族に対する地域における支援力向上を図ることをねらいとし、精神科医に概ね年12回、弁護士に概ね年3回来所して頂き、ケース検討会を設定する等して、職員へのスーパービジョンを実施した。

(2) 「子どもの生活研究所」保育部門

法人執行本部のもと、理事長(拠点場長)・園長・副園長・事務主任による保育部門会議を月1回のペースで開催した。これまでには、3園の足並みを揃える等、運営管理面の強化を目的とした情報共有や作業を中心に行っていたが、2020年度は法人における保育ビジョンを考えることを目的として行われた。新型コロナウイルス感染症による4月の緊急事態宣言発令に伴い、保護者に登園自粛を求める縮小保育、ライフラインに欠かせない職業についている家庭のみが利用できる応急保育を経て、9月30日に世田谷区より発出された『新しい日常における保育対応ガイドライン』に則り、各園の状況に応じた環境設定と保育内容の見直

しが行われた。保育に関しては、「子どもが主体性を持つて、自発的・意欲的に友達や保育者と関わることを進めると共に、相互の信頼関係を土台として、様々な体験を積み重ね学び合う」という受容的交流理論に基づいた保育を行った。保護者支援については、感染拡大防止対策により、多人数で行う会合や行事を通して子どもの育ちを共有することが難しくなった。緊急事態宣言中には、要配慮・要支援家庭を中心に電話相談にて相談対応を行い、日常的には連絡帳や通信といった書面にて子どもの姿を保護者と共有することが多くなった。

(3) 嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦

今年度は新型コロナウイルス感染症への対策に追われた一年であつた。幸いにも現状では利用者、職員と共に一人の感染者も出ず、年度末を迎えたが、まだ感染拡大の状況は継続しているため、引き続き対策をとりつつ、今の生活が少しでも利用者にとって過ごしやすい環境に整えていくことが課題である。この新型コロナウイルス感染症による影響

は各事業所全てにあるが、特に運営面からみると利用率の低下につながる事業と、大きく影響しない事業に分かれる結果となつた。袖ヶ浦のびろ学園においては、今年度は新型コロナウイルス感染症により今までの入所や短期入所のスタイルに変化が見られた。学校などの休校や社会全体の活動の自粛により生活リズムの崩れや、見通しの立たない生活を余儀なくされ、ストレスを抱えることになつた子どもたちの状態の悪化や家族の在宅勤務の弊害などから、児童虐待のケースが増加した。袖ヶ浦ひかりの学園においては、家庭への帰省を中断するということが利用者の生活にとつて大きな影響を与える懸念があつたが、利用者は当初の予想より、かなり落ち着いてこの事態を受け入れることが出来た。今年度、残念なことに二人の利用者が病氣により亡くなることがあつた。一人は通常の検診においてがんが見つかつたが、すでに治療が難しい状態であったが、そこで治療が難しい状態であり、ご家族と相談した上で今まで通り、学園での生活を続けた。その対応の中で問題点や課題もあつたが、本人にとっての生活、または最後を

看取つていくことの難しさを改めて痛感させられた。えがお袖ヶ浦(袖ヶ浦市相談支援事業)が拡充され、2021年1月18日に基幹相談支援センターが開所した。袖ヶ浦市福祉事業所うぐいす園では、特に生活介護事業への利用希望が定員を上回ることが見込まれたため、袖ヶ浦市と協議し、条例を変更、次年度からは生活介護事業の定員を12名から20名に増員することとなつた。

(4) 板橋区立赤塚福祉園

福祉園全体では、責任者クラスの職員による運営会を組織し、福祉園全体として、一体的な運営に努めた。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴い板橋区から示された運営方針に基づき、園内における感染防止対策の徹底、宿泊旅行を含めた行事の中止、不特定多数の人と接触する場所への外出の制限等、感染防止対策に重点をおいた運営を行つた。デイセンターきらら(生活介護事業)においては、コロナ禍ではあつたが、区立福祉園平準化基準の範囲内において「在園時間の延長」を行つた。また、以前は取り組むことが少

なかつた園内での活動に力を入れるなど工夫し、サービスの提供に努めた。ワークセンターはばたき（就労継続支援B型事業）においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、イベントやキャンペーン等の中止、自粛が相次ぎ、ラスク販売や企業からの受注作業依頼は減少しており、工賃の減少傾向は続いている。赤塚ホーム（緊急保護事業）については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により利用率は半減しているが、緊急を要する利用については、従来通り、板橋区との協議により対応した。区立福祉園の民営化の検討については、検討の進捗状況及び今後の予定について、利用者・家族向けに説明会が開催された。2021年度以降には板橋区としての方針が示される予定である。

### (5) 清瀬市子どもの発達支援・交流センター

「地域と連携・交流しながら地域にくらす親子をささえ」を基本理念として、法人が長年にわたり培ってきた実績に基づく理念「受容的交流」や、現スーパービジョン体制の下に

子ども、さらに社会生活上何らかの問題を持つも子どもの相談・訓練指導を通して成長・発達を援助し、地域での育ちを支えることを目的とした。ワーカーはばたき（就労継続支援B型事業）においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、イベントやキャンペーン等の中止、自粛が相次ぎ、ラスク販売や企業からの受注作業依頼は減少しており、工賃の減少傾向は続いている。赤塚ホーム（緊急保護事業）については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により利用率は半減しているが、緊急を要する利用については、従来通り、板橋区との協議により対応した。区立福祉園の民営化の検討については、検討の進捗状況及び今後の予定について、利用者・家族向けに説明会が開催された。2021年度以降には板橋区としての方針が示される予定である。

### (6) 大田区立こども発達センター

#### わかばの家

心身の発達に遅れや偏り、またその疑いのある就学前の乳幼児に対し、基本的な自立の育成と集団生活への適応を高めることを目的とし、

心身の発達に遅れやかたよりのある子ども、さらに社会生活上何らかの問題を持つも子どもの相談・訓練指導を通して成長・発達を援助し、地導を通して成長・発達を援助し、地域での育ちを支えることを目的とした。ワーカーはばたき（就労継続支援B型事業）においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、イベントやキャンペーン等の中止、自粛が相次ぎ、ラスク販売や企業からの受注作業依頼は減少しており、工賃の減少傾向は続いている。赤塚ホーム（緊急保護事業）については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により利用率は半減しているが、緊急を要する利用については、従来通り、板橋区との協議により対応した。区立福祉園の民営化の検討については、検討の進捗状況及び今後の予定について、利用者・家族向けに説明会が開催された。2021年度以降には板橋区としての方針が示される予定である。

早期に必要な支援を行う施設として、区の定める運営方針に基づき「乳幼児の支援」「保護者との連携・支援」「関係機関との連携」「地域と触れ合う施設づくり」を行った。本年度は、新たに「西六郷分室」が開設され、わかばの家全体の機能を4施設体制として、再配置、拡充した。それによつて、初回面談までの待機期間を考慮した形で事業を進めていかなければならぬ状況であったが、対象となる本人や家族だけではなく、その方を取り巻く関係者への支援をする等、地域の支援力の向上に努めると共に、相談・療育・支援の場の提供だけではなく、地域療育の拠点となることをを目指し、地域活動にも事情が許す範囲で参加をしながら連携に努めた。今までにない状況下で、当たり前のことが当たり前でない「こどもの工夫が支援者側だけでなくとからの工夫が支援者側だけでなく家庭内や所属先でも生まれた一年であった。

改革に伴う「業務改善委員会」を設置し、各事業とも複雑化・煩雑化している業務を見直すとともに、効率化に向けて取り組んだ。

## 資金収支計算書

社会福祉法人 嬉泉

(自) 2020年4月1日 (至) 2021年3月31日

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事業活動による収支	収入	児童福祉事業収入	58,639,000	61,318,373
		保育事業収入	754,843,018	752,986,910
		就労支援事業収入	20,850,000	20,230,211
		障害福祉サービス等事業収入	1,902,235,655	1,909,041,996
		相談事業収入	980,000	1,005,589
		利用料収入	3,670,000	3,685,480
		借入金利息補助金収入	130,000	81,322
		経常経費寄附金収入	12,305,000	18,071,548
		受取利息配当金収入	253,600	192,517
		その他の収入	102,764,373	102,630,226
	事業活動収入計 (1)		2,856,670,646	2,869,244,172
	支出	人件費支出	2,122,051,260	2,087,592,288
		事業費支出	222,648,876	207,206,824
		事務費支出	410,985,742	381,890,442
		就労支援事業支出	20,850,000	20,175,211
		支払利息支出	2,946,500	2,436,462
		事業活動支出計 (2)	2,779,482,378	2,699,301,227
	事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)		77,188,268	169,942,945
施設整備等による収支	収入	施設整備等収入計 (4)	0	0
		設備資金借入金元金償還支出	22,195,000	22,193,000
	支出	固定資産取得支出	353,328,456	348,550,236
		固定資産除却・廃棄支出	9	0
		ファイナンス・リース債務の返済支出	10,060,520	10,029,078
		その他の施設整備等による支出	5,888,194	5,887,728
		施設整備等支出計 (5)	391,472,179	386,660,042
	施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)		△ 391,472,179	△ 386,660,042
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	8,500,000	7,000,000
		拠点区分間繰入金収入	30,948,743	0
		サービス区分間繰入金収入	28,600,000	0
		その他の活動による収入	8,737,000	8,730,000
		その他の活動収入計 (7)	76,785,743	15,730,000
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出	11,253,720	10,832,000
		積立資産支出	25,000,000	25,000,000
		拠点区分間繰入金支出	30,948,743	0
		サービス区分間繰入金支出	28,600,000	0
		その他の活動による支出	65,627,384	65,615,384
		その他の活動支出計 (8)	161,429,847	101,447,384
		その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)	△ 84,644,104	△ 85,717,384
	予備費支出 (10)		0	0
	当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△ 398,928,015	△ 302,434,481
	前期末支払資金残高 (12)		870,535,027	870,535,027
	当期末支払資金残高 (11)+(12)		470,488,346	568,100,546
				△ 97,612,200

## 事業活動計算書

社会福祉法人 嬉泉

(自) 2020年4月1日 (至) 2021年3月31日

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益	児童福祉事業収益	61,318,373	46,690,789
		保育事業収益	752,986,910	792,685,236
		就労支援事業収益	20,230,211	23,199,971
		障害福祉サービス等事業収益	1,909,041,996	1,849,194,577
		相談事業収益	1,005,589	3,377,500
		利用料収益	3,685,480	3,257,580
		経常経費寄附金収益	18,071,548	25,713,983
		その他の収益	100,906,841	47,398,393
	サービス活動収益計 (1)	2,867,246,948	2,791,518,029	75,728,919
サービス活動費用計(2)	費用	人件費	2,087,592,288	2,099,644,817
		事業費	207,206,824	221,765,614
		事務費	381,890,442	348,474,122
		就労支援事業費用	20,175,211	23,199,970
		減価償却費	99,359,104	97,610,018
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 49,512,467	△ 51,516,386
		徴収不能額	0	152,540
		サービス活動費用計 (2)	2,746,711,402	2,739,330,695
サービス活動外増減の部	サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)	120,535,546	52,187,334	68,348,212
サービス活動外収益	収益	借入金利息補助金収益	81,322	93,754
		受取利息配当金収益	192,517	203,853
		その他のサービス活動外収益	1,723,385	2,438,683
		サービス活動外収益計 (4)	1,997,224	2,736,290
	サービス活動外費用	支払利息	2,436,462	1,388,117
サービス活動外費用	サービス活動外費用計 (5)	2,436,462	1,388,117	1,048,345
	サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)	△ 439,238	1,348,173	△ 1,787,411
	経常増減差額 (7)=(3)+(6)	120,096,308	53,535,507	66,560,801
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	0	0
		施設整備等寄附金収益	0	0
		拠点区分間固定資産移管収益	0	0
		特別収益計 (8)	0	0
	費用	固定資産売却損・処分損	42,571	32
		国庫補助金等特別積立金積立額	759,456	0
		その他の特別損失	56,740,384	15,869,913
		特別費用計 (9)	57,542,411	15,869,945
		特別増減差額 (10)=(8)-(9)	△ 57,542,411	△ 15,869,945
		当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)	62,553,897	37,665,562
前期繰越活動増減差額	765,128,674	727,463,112	37,665,562	
	当期末繰越活動増減差額 (13)=(11)+(12)	827,682,571	765,128,674	62,553,897
	基本金取崩額 (14)	0	0	0
	その他の積立金取崩額 (15)	7,000,000	0	7,000,000
	その他の積立金積立額 (16)	25,000,000	0	25,000,000
次期繰越活動増減差額 (17)=(13)+(14)+(15)-(16)		809,682,571	765,128,674	44,553,897

## 貸借対照表

社会福祉法人 嬉泉  
2021年3月31日現在

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	791,264,278	1,051,649,357	△ 260,385,079	流動負債	266,067,660	219,716,018	46,351,642
固定資産	2,314,567,094	2,041,385,805	273,181,289	固定負債	370,331,779	417,688,097	△ 47,356,318
基本財産	1,959,561,084	1,455,616,620	503,944,464				
その他の固定資産	355,006,010	585,769,185	△ 230,763,175	負債の部合計	636,399,439	637,404,115	△ 1,004,676
				純資産の部			
				基本金	1,111,718,279	1,111,718,279	0
				国庫補助金等特別積立金	492,031,083	540,784,094	△ 48,753,011
				その他の積立金	56,000,000	38,000,000	18,000,000
				次期繰越活動増減差額	809,682,571	765,128,674	44,553,897
				(うち当期活動増減差額)	62,553,897	37,665,562	24,888,335
				純資産の部合計	2,469,431,933	2,455,631,047	13,800,886
資産の部合計	3,105,831,372	3,093,035,162	12,796,210	負債及び純資産の部合計	3,105,831,372	3,093,035,162	12,796,210

## ◎法人からのお知らせ◎

### ～新型コロナウイルス感染症対策に伴う「嬉泉バザー」の開催中止について～

例年、秋に開催しておりました法人主催の「嬉泉バザー」につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参加者及び関係者の皆様の健康・安全部を第一に考慮した結果、大変残念ではありますが、昨年度に引き続き、今年度も中止とさせていただきます。

毎年、開催を楽しみにしていただいている皆様、また、ご協力いただいている皆様には、何卒ご理解賜りますようお願い致します。

また、来年度の開催の折には、皆様にお会いできることを職員一同、楽しみしております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



### 嬉泉職員によるリレーエッセイ⑥

用心深く物事を行うことのたとえとして「石橋を叩いて渡る」ということわざがあります。堅固に見える石橋でも、なお、安全を確かめてから渡る、慎重な姿勢を表す言葉ですが、我が身を振り返ってみると、叩いただけでは信用できず、自分で作り直してから渡るくらいだと思います。叩いただけでは中身までは分かりませんが、分解することで中身がわかるようになりますし、すべてが思うとおりになります。この作業は、当然、時間がかかることがあります。叩いたとしてもありますし、すべてが思うとおりになります。この作業は、成功したと思うこともありますし、すべてが思うとおりになります。この作業は、成功したと思うこともあります。そして、倒なことをしなくてもと言われるが、たくさん失敗もしてきました。他の人から見れば、こんな面倒なことをしなくともと言われると思いますが、自分がきちんと納得して動くことはこれからも変わらないかなと思います。そして、「表面的なことだけではなく、中身まできちんと理解しようとする」と思っています。そこでは、人に関わる仕事をする姿勢にもおいても大切なことです。いつも思っています。

（赤塚福祉園園長 小池朗）